

授業準備としての配慮表現調査を行って

近藤 有美

キーワード：配慮表現、新日本語能力試験、聴解、即時応答

1. はじめに

2010年度に日本語能力試験の改定が行われたことは記憶に新しい。日本語能力試験の公式ホームページ (<http://www.jlpt.jp/about/points.html>) には、新試験の改定点の一番目に「コミュニケーション能力を重視」と挙げられている。この「コミュニケーション能力」の育成は、かねてから注目されていたものであるが、試験に挑む学習者にとってはこれが大きな壁となっていることがわかった。特に、学習者を悩ませているものが、聴解問題に新しく加わった「即時応答」問題である。能力試験対策のために出版されている本の練習問題を見てみると、「即時応答」問題には言語知識のみでは正答が導けないものがある。旧日本語能力試験の1級に合格している学生も、その難しさに頭を悩ませているようだ。

多くの学習者を悩ませる「即時応答」問題にはどのような難しさが潜んでいるのか。複数の学習者と一緒に練習問題に取り組んだところ、その原因が「配慮表現」にあるのではないかという結論に至った。そして、その配慮表現について解説をしているとき、学習者の一人から「先生は日本語の先生だからわかるかもしれないが、普通の日本人も同じように感じるのか」という質問を受けた。「普通の日本人」という部分に多少の違和感を覚えたが、この学習者の意図は理解できた。このような疑問を抱く学習者は少なからずいるだろう。

そこで、日本語母語話者を対象に、配慮表現に関する調査を試みた。本稿では、その結果を分析し、学習者への配慮表現の指導の手掛かりを探りたい。なお、本稿で用いる調査は、研究として行ったものではなく、あくまで日本語教師が授業の準備の一環として行ったものであることを断っておきたい。

2. 新試験に見られる配慮表現の例

2010年度に改定された新しい日本語能力試験の聴解問題には、旧試験にはなかった「即時応答」問題がN1～N5のすべてのレベルに見られる。「即時応答」問題とは、一対一の会話で、まずある発話が流れ、それに続く応答として適切なものを流れてくる3つの発話から選ぶというものである。以下の例1は、N5レベルの「即時応答」の問題例である。

- 例1) A：お国はどちらですか。
B：_____。
1. あちらです。
2. アメリカです。
3. 部屋です。

(<http://www.jlpt.jp/about/points.html>)

例1であれば、答えを「2」と選ぶことに大きな問題はないだろう。しかし、N2レベルの練習問題集（JLCI新試験研究会2011）には、例2のような問題がある。

- 例2) A：イチゴ銀行さんじゃないですか。
B：_____。
1. 違います
2. 山形銀行でございますが
3. あいにく、でございます

(JLCI新試験研究会2011 Part4 1番)

この問題を旧1級、2級合格者17名に行ったところ、8名が「1」を、6名が「3」を選択した。正解である「2」を選択したものは3名だった。この問題集の解説には、「1. 丁寧ではないので不適当」、「3. 『あいにく』は『残念ですが』の意味なので、不適当」とある（同書：164）。「丁寧さ」と言えば「敬語」と考えてきた学習者や、これまで言語形式のみに注目してきた学習者にとって、このような問題は大きな戸惑いとなっているようである。

例2の解説では「丁寧さ」のみが指摘されているが、学習者には発話者や

場面背景も考慮することを伝える必要があるように感じる。例えば、これが例3のような発話であったら「1」も正答であろう。

例3) A: 山田さんのお宅じゃないですか。

B: _____。

1、違います

2、佐藤でございますが

3、あいにく、違いますが

(筆者作例)

例2も例3も間違い電話である。しかし、例3が個人宅にかかった間違い電話であるのに対して、例2は企業にかかったものである。そう考えると、発話者AはBの取引先、または、顧客である可能性も否めない。そうでなくとも、Bは企業としての対応が求められると考えるのが妥当であろう。そのような場面背景を考えると、「1」の発話は「丁寧さ」に欠けると同時に、「失礼」表現となる恐れがあるというわけである。

このような日本語能力試験の出題傾向の変化を受け、配慮表現をどう指導したらよいのかという問題に直面している。そして、学習者とともに日本語のコミュニケーションにおける丁寧さについて考えるための材料として、自身で調査してみたいと思った。

3. 調査の概要

調査期間：2011年2月～4月

調査対象：日本で生まれ育ち、普段から日本語を使用している日本語母語話者209名（24歳～62歳）。丁寧さという感覚的なものを尋ねる調査であるため、他の言語の感覚が強く影響すると思われる外国語に精通している人は意図的に排除した。

調査方法：日本語教師から集めた「気になる日本語」を参考に28問を用意し、各問を5段階で評価してもらった。（非常に失礼…「5」、どちらかというと失礼…「4」、どちらでもない…「3」、どちらかというと丁寧…「2」、非常に丁寧…「1」）

質問内容：巻末資料参照

<質問例>

先輩：ねえ、今日の夜、行けそう？
後輩：ダメです。本当にすみません。

5 4 3 2 1

失礼 ←————→ 丁寧

各問には、ある表現を特定するようなアンダーライン等は引いていない。これは、特定部分への注目により回答を誘導する危険を避けるためである。

4. 調査結果

調査によって得られた209名分の回答は、「5」を2ポイント、「4」を1ポイント、「3」を0ポイント、「2」をマイナス1ポイント、「1」をマイナス2ポイントとして各問毎に集計した（表1）。ポイントが高い問いほど、母語話者にとって「丁寧さに欠ける」、または「失礼」と思われていることとなり、ポイントがマイナスとなっていれば「丁寧」であると感じられていることとなる。

表1 調査結果

問(1)	109	問(8)	－39	問(15)	－89	問(22)	－173
問(2)	228	問(9)	39	問(16)	109	問(23)	－43
問(3)	－158	問(10)	302	問(17)	33	問(24)	134
問(4)	114	問(11)	188	問(18)	19	問(25)	302
問(5)	223	問(12)	203	問(19)	267	問(26)	89
問(6)	292	問(13)	74	問(20)	139	問(27)	43
問(7)	198	問(14)	124	問(21)	29	問(28)	178

ポイントが高かった上位10場面は、以下の通りである。

①302ポイント

問(10) 学生：「作文見せてさしあげます」
先生：「あ、どうも」

問(25) (日本語学校の先生と、帰国する学生)

先生：「元気でね～」

学生：「国へ帰ったら、手紙を書いてあげます」

③292ポイント

問(6) A：「Bさん、今日うちでやるパーティーいらっしゃるおつもりですか？」

B：「はい、うかがうつもりです」

④267ポイント

問(19) 先生：「宿題は？今日までだよ」

学生：「あっ、じゃ、あとで持って来ましょうか？」

⑤228ポイント

問(2) 学生：「ジュース買ってきますが、先生も飲みたいですか？」

先生：「あ、私は大丈夫です」

⑥223ポイント

問(5) (推薦書を頼んでおいた先生と学生)

先生：「あっ、推薦書、今日までだったっけ？」

学生：「先週お願いするときに申し上げたじゃないですか」

⑦203ポイント

問(12) 先生：「じゃ、さようなら～」

学生：「先生、ご苦労さまでした」

⑧198ポイント

問(7) (AとBはクラスメイト)

A：「先週やったテスト、難しかったと思わない？」

B：「思わない」

⑨188ポイント

問(11) 先生：「作文は来週までに出してください」

学生：「えっ？今なんとおっしゃいましたか？」

⑩178ポイント

問(28) (AとBは友だち同士)

A：「ねえ、ちかちゃんと子どもが生まれたの知ってる？」

B：「そんな話、私も知ってるよ」

5. 考察

5. 1 「～てあげます」

調査の結果、最も高いポイントを得たのは、問(10)と問(26)であった。どちらも会話形式で提示されているため、発話のどの部分を失礼と感じたかについて回答は得られていないが、学生の「作文を見せてさしあげます」と、「国に帰ったら、手紙を書いてあげます」であると推測できよう。なぜこの二つの発話が非常に不快な印象を与えたのか。どちらの発話にも含まれているのが、行為の授受表現の「～てあげます」である。「～てあげます」とは本来、「ある行為によって相手が利益を受ける」ということを含意している（姫野2003）。それでは、問(10)と問(26)の受益者は誰なのか。問(10)では、学生が先生に「作文を見せてさしあげます」と言っているので、「作文を見せる」という行為によってその受け手である先生が利益を得るのだということが言語的に表現されている。しかし、実際には、作文を見せ、それを直してもらうことにより利益を受けるのは学生のほうであろう。そう考えると、言語的に表現された受益者と実際の受益者にずれがあることになる。同様に、問(26)も、「手紙を書いてあげる」というのは、その行為によって受け手である先生に利益があると述べられている。しかし、この場合、手紙を書くのは学生の意思によるもので、それによって本当に先生に利益があるかどうかは明確ではない。

このように、本来「～てあげます」は、相手に利益があるとはっきり示せる場合に使われるものであり、言語的に表現された受益者と実際の受益者にずれがある場合には、非常に失礼だと感じる日本語母語話者が多いことがわかった。では、言語的に表現された受益者と実際の受益者が一致する場合はどうであろうか。以下の例4は、本調査での問(16)である。問(16)の「持ってあ

げましょうか」という表現では、この行為によって利益を受けるのは「先生」だと述べられている。そして、実際この話者が荷物を持つことによって、相手（先生）は楽になり、利益を得られると言える。つまり、前出の問(10)や問(26)と異なり、問(16)は言語上の受益者と実際の受益者が一致している。しかし、表1のポイントはプラス109となっており、決して丁寧とは評価されていない。

例4) 問(16) (学生が先生に)

「先生、荷物重そうですね。持ってあげましょうか？」

本調査から、言語的に表現した受益者と実際の受益者にずれがあった場合に「～てあげます」が使用されると、母語話者が不快に感じるということがわかったが、さらに、言語的に表現された受益者と実際の受益者が一致する本来の使い方をしても、「～てあげます」を直接その行為の受け手に使用した場合には、不快な印象を与えることが示唆された。

5. 2 丁寧さが伝わらない敬語表現

新日本語能力試験の「即時応答」問題を学習者と一緒に行った際、学習者は、上司や教師に対する発話に尊敬語が使われているか否かを判断の基準としていることがわかった。しかし、今回の調査でポイントが高かった上位10場面の問(5)、問(6)、問(11)には敬語表現が用いられている。このような結果を学習者と共有することは、「敬語＝丁寧」と考えている学習者にとって再考の材料となるであろう。

本調査に協力いただいた母語話者13名に追跡調査をしたところ、これら3場面は敬語の使用がむしろ不快さを増す原因となっているという意見も聞かれた。それでは、母語話者はどのような発話を期待しているのであろうか。13名は以下のように回答している（各問の下のア～g）。応答発話に注目するため、ここでは問(6)に関しては言及しない。

問(5) (推薦書を頼んでおいた先生と学生)

先生：「あつ、推薦書、今日までだったっけ？」

学生：「_____」

a. 「はい」

- b. 「すみません。そうなんです」
- c. 「はい、本当にすみません」
- d. 「お忙しいところすみませんが、お願いできますか」

問(11) 先生：「作文は来週までに出示してください」

学生：「_____」

- e. 「すみません、もう一度お願いします」
- f. 「すみませんが、もう一度お願いできますか」
- g. (何も言わず、あとでクラスメイトに聞く)

問(5)の好ましい応答として母語話者が挙げた4つのうち3つに「すみません」という表現が含まれていることに注目したい。問(5)の先生の発話から、「この先生は学生に頼まれていた推薦書を忘れていた」、「先生は頼まれた学生の顔を見て、推薦書を頼まれていたことを思い出した」、「その推薦書は今日までだった」ということが推測できる。推薦書を忘れていたのは先生であっても、即時応答として母語話者に好まれるのは「すみません」を含む発話であり、そこに丁寧さを感じるということであろう。

問(11)に関して母語話者が示した応答例も興味深い。問(11)のような聞き返しの場合、「なんとおっしゃいましたか」ではなく、「もう一度お願いします」「もう一度お願いできますか」が好まれていることが示唆された。また、状況によっては直接聞かないという回答もあった。直接聞くことによってコミュニケーションに支障をきたす恐れがあるような場合には、それを避けるという方法も用いられる可能性があるということであろう。

5. 3 優先的な応答と丁寧さ

5. 2で母語話者に「好まれる応答」の存在に触れたが、「好まれる応答」には個別のケースではなく、ある程度定型となっているものもあるのではないか。Levinson (1983) は、「好まれる応答」と「好まれない応答」を表2のように示している。会話には、「依頼」に対する「承諾」や、「評価」に対する「一致」の表明のように「好まれる応答」があるというわけである。これは、日本語のコミュニケーションにおいても応用可能であろう。たとえば、前出の「即時応答」の例であるが、「イチゴ銀行さんじゃないですか」という

発話は、相手が「イチゴ銀行である」ということを期待しているものであろう。そのため、「違います」は「好まれない応答」である。表2でいう「問い」に対する「予想外の応答」となろう。

表2 応答ペアにおける内容と形式の相互関係

第1の発話		依頼	申し出 誘い	評価	問い	非難
第2の 発話	優先的な 応答	承諾	承諾	一致	予想される応答	否認
	非優先的な 応答	拒否	拒否	不一致	予想外の応答、 無回答	是非

(Levinson 1983: 336)

同様のことが本調査の問(7)と問(8)にも当てはまる。問(7)のAは「先週のテストは難しかった」とテストを評価しており、その自身の評価に対してBからも「難しかった」という一致の表明があると期待していただろう。しかし、Bの応答は「思わない」という不一致表明である。表2は、「評価」に対する「不一致」表明が「好ましくない応答」であることを示している。

問(7) (AとBはクラスメイト)

A:「先週やったテスト、難しかったと思わない？」

B:「思わない」

また、問(8)のAはBに対して「新しい情報」を知らせたいと思っていることが窺える。しかし、Aの予想に反してBはすでにその情報を持っており、さらに、Bはその情報が大了なことではないと思っていることがBの「そんな話」という発話から窺える。このBの応答はAの予想に反していると考えれば「好ましくない応答」となろう。

問(8) (AとBは友だち同士)

A:「ねえ、ちかちゃんとこ子どもが生まれたの知ってる？」

B：「そんな話、私も知ってるよ」

以上で議論したように、日本語のコミュニケーションにおいて「好ましくない応答」を示した場合には失礼な印象を与える可能性が高いことが示された。そのため、「好ましくない応答」をしなければならないときには、要件のみを伝えるのでは不十分であるということになる。このように考えれば、「イチゴ銀行さんじゃないですか」に対する応答として、「違います」という直接表現より「山形銀行でございますが」という応答が好まれるのも理解できよう。

5. 4 その他

初級の学習項目のうち、従来から失礼表現につながる可能性が指摘されていた「相手に対して使う『つもり』、『～たい』」や、「目上に対して言う『ご苦労様でした』」は、今回の調査でも母語話者に不快に思われていることが示されたが、理由を表す「～から…」(問20)や「あなた」(問22)は、ポイントがマイナスとなっており、それらの表現自体が直接母語話者の不快につながるとは言い難いことも示唆された。

また、問(8)と問(9)の違いにも注目したい。この二つは、同じ状況における答え方の若干の違いが、ポイントのプラスとマイナスを左右している。ある上級学習者にこの問いを見せ、意見を聞いたところ、この学習者は二つの問いの謝罪の仕方「あっ、ごめんなさい」と「本当にすみません」に注目し、「『本当にすみません』と言っている問(9)のほうが丁寧である」と答えた。しかし、日本語母語話者の判断はそれとは逆になっている。これは、母語話者の判断が、言語形式のみではなく、その現れる順番にも左右されているということであろう。

6. おわりに

本稿で議論した類のことは、語用論などの専門分野ではすでに十分議論されていることかもしれない。しかし、研究が専門的になればなるほど現場への応用の難しさを感じるのは筆者だけであろうか。

私たちは日本語教育において日本人を作り上げているわけではない。配慮表現をどこまで取り扱うかについては、同化教育の点からも疑問を投げかけ

る声がある。筆者自身もすでに10年以上この問いに悩み、いまだ答えが出せずにいる。しかし、この度の日本語能力試験の改定により、学習者とともに配慮表現について考える機会を得、今一度この課題について考えてみたいと思った。次は、この調査結果について学習者とともに議論し、その結果を報告したい。

参考文献

- 姫野伴子（2003）「配慮表現から見た日本語① 利益って負担！」『月刊日本語』4月号 pp.66-69.
- 姫野伴子（2004）「配慮表現から見た日本語② 利益と負担、再び」『月刊日本語』2月号 pp.66-69.
- JLCI新試験研究会（2011）『実力アップ日本語能力試験N2「聞く」（聴解）』ユニコム
- Levinson, S. C. (1983) *Pragmatics*, Cambridge University Press. (日本語訳：安田稔・奥田夏子（訳）(1990)『英語語用論』研究者)

参考ウェブサイト

日本語能力試験公式ホームページ <http://www.jlpt.jp/>

(留学生センター 非常勤講師)

資料 配慮表現に関する調査

問(1) 先輩：「何飲む？」

後輩：「コーヒーでいいです」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(2) 学生：「ジュース買ってきますが、先生も飲みたいですか？」

先生：「あ、私は大丈夫です」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(3) (忙しい先生に)

学生：「先生、お忙しいところ大変申し訳ありませんが、私の作文を見て、直していただけないでしょうか」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(4) (友だち同士)

学生A：「作文の宿題って、木曜日までだったよねー」

学生B：「だから、金曜日までだってー」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(5) (推薦書を頼んでおいた先生と学生)

先生：「あっ、推薦書、今日までだったっけ？」

学生：「先週お願いするときに申し上げたじゃないですか」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(6) A：「Bさん、今日うちでやるパーティーいらしゃるおつもりですか？」

B：「はい、うかがうつもりです」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(7) (AとBはクラスメイト)

A:「先週やったテスト、難しかったと思わない?」

B:「思わない」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(8) 先輩:「ねえ、今日の夜、飲み会行けそう?」

後輩:「あつ、ごめんなさい。ダメなんです」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(9) 先輩:「ねえ、今日の夜、飲み会行けそう?」

後輩:「ダメです。本当にすみません」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(10) 学生:「作文見せてさしあげます」

先生:「あ、どうも」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(11) 先生:「作文は来週までに出してください」

学生:「えっ?今なんとおっしゃいましたか?」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(12) 先生:「じゃ、さようなら～」

学生:「先生、ご苦労さまでした」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(13) 学生:「先生、今日の服、けっこういいですね」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(14) (AとBは同僚)

A:「ちょっとこれやってくれない?」

B:「今は忙しくてできません」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(15) (学生が先生に)

学生:「すみません、漢字の読み方がわからないから教えてください」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(16) (学生が先生に)

学生:「先生、荷物重そうですね。持ってあげましょうか?」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(17) (学生が先生に)

学生:「今度の日曜日は何をするつもりですか?」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(18) (学生が先生に)

学生:「先生、もう作文ご覧になりましたか?」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(19) 先生:「宿題は? 今日までだよ」

学生:「あつ、じゃ、あとで持ってきてみましょうか?」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(20) (自転車を置く場所がなくて困っているAが、駅の近くの知らない人の家に行って)

A:「駐車場代2000円払いますから、置かせてください」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(21) 先生：「はい、今日はこれで終わります」

学生：「先生、今日の授業はとてもよかったです」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(22) A：「あなたのご両親はどこに住んでいらっしゃいますか？」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(23) 先生：「テキスト忘れたの？」

学生：「先生、ごめんなさい」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(24) 学生：「先生は明日学校へ来ますか？」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(25) (日本語学校の先生と、帰国する学生)

先生：「元気でね～」

学生：「国へ帰ったら、手紙を書いてあげます」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(26) (AとBは友だち同士)

A：「Xさんって知ってる？」

B：「あの人ハンサムじゃないくせにもてるんだよね。性格がいいからかなあ」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(27) (AとBは友だち同士)

A：「今度の休みはスキーにいきたいな」

B：「じゃ、北海道に行ったほうがいいよ」

5 4 3 2 1
失礼 ←————→ 丁寧

問(28) (AとBは友だち同士)

A：「ねえ、ちかちゃんとか子どもが生まれたの知ってる？」

B：「そんな話、私も知ってるよ」

